

2. アセットマネジメントについて

2.1 アセットマネジメントの定義及び効果

平成 25 年 3 月に公表された「工業用水道施設 更新・耐震・アセットマネジメント指針：経済産業省」（以下、「指針」という。）の中では、アセットマネジメントの定義及びその効果について、以下のとおり位置付けている。

(1) 定義

工業用水道におけるアセットマネジメント（資産管理）とは、「持続可能な工業用水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、工業用水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に工業用水道施設を管理運営する体系化された実践活動」を指す。

(2) 効果

アセットマネジメント（資産管理）の実践によって、次に示すような効果が期待される。

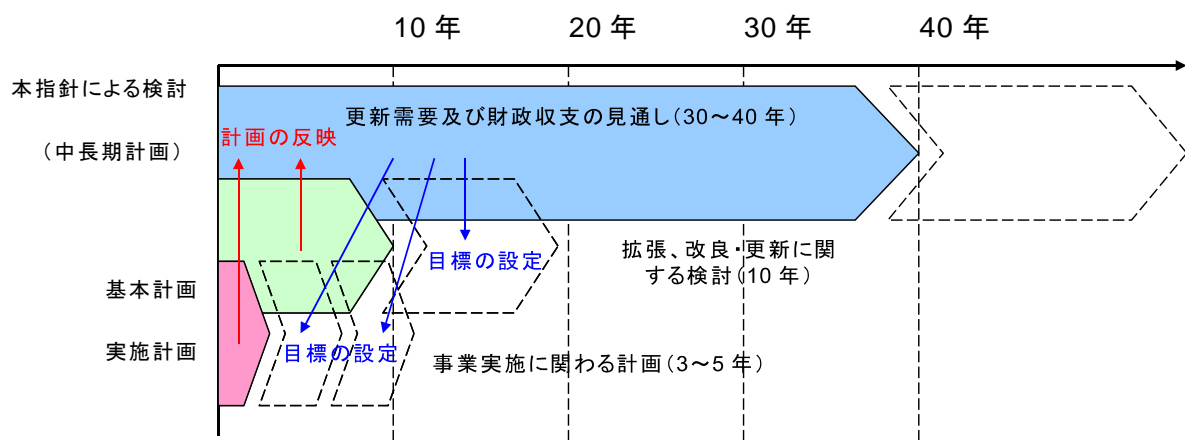
- 1) 施設の重要度・更新の優先度を踏まえた投資の平準化が可能となる。
- 2) 適正な財源の裏付けを有する計画的な投資を行うことが可能となる。
- 3) 工業用水道施設全体のライフサイクルコストの低減が可能となる。
- 4) 工業用水道事業者とユーザー企業との間で情報共有することにより、信頼性の高い事業運営が可能となる。

2.2 アセットマネジメントの検討期間

アセットマネジメントは、中長期の更新需要及び財政収支の見通しの把握が必要であり、指針では概ね30～40 年程度の中長期の見通しについて検討することとしている。

このため、本検討では2016年度（平成28年度）から2058年度（平成70年度）までの43年間とする。

図 2-2-1：中長期計画と各種計画との関連



出展「工業用水道施設 更新・耐震・アセットマネジメント指針」

2.3 アセットマネジメントの実践手法

アセットマネジメントの実践は、その導入において、データの制約、診断や評価の実施体制等が課題となる。ただし、上記理由から中長期の財政収支の見通しを行わなければ、将来の潜在的なリスクが増大し、安定的な事業運営に支障をきたすおそれがある。このため、ここでは現存するデータの収集を行った上で、下記手順に従い検討可能な手法の選定を行うものとする。

表2-3-1：検討手法の選定

更新需要 / 財政収支	標準型	詳細型
標準型 (更新需要)	標準型	標準型 (財政収支詳細) 民間資金活用の可能性 や二部料金制、資産維持費の計上についての検討結果を反映
詳細型 (更新需要)	標準型 (更新需要詳細) 機能診断や耐震診断結果に基づく施設の更新需要の反映	詳細型

出展「工業用水道施設 更新・耐震・アセットマネジメント指針」

検討手法を決定後、以下のフローに従い業務の遂行を図る。

図 2-3-1 : アセットマネジメント実践フロー

